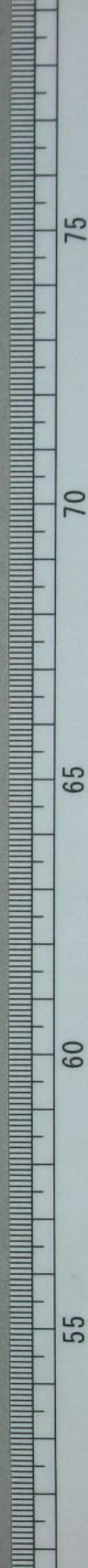


碁立絹篩後編

五

ヲ多  
641  
5

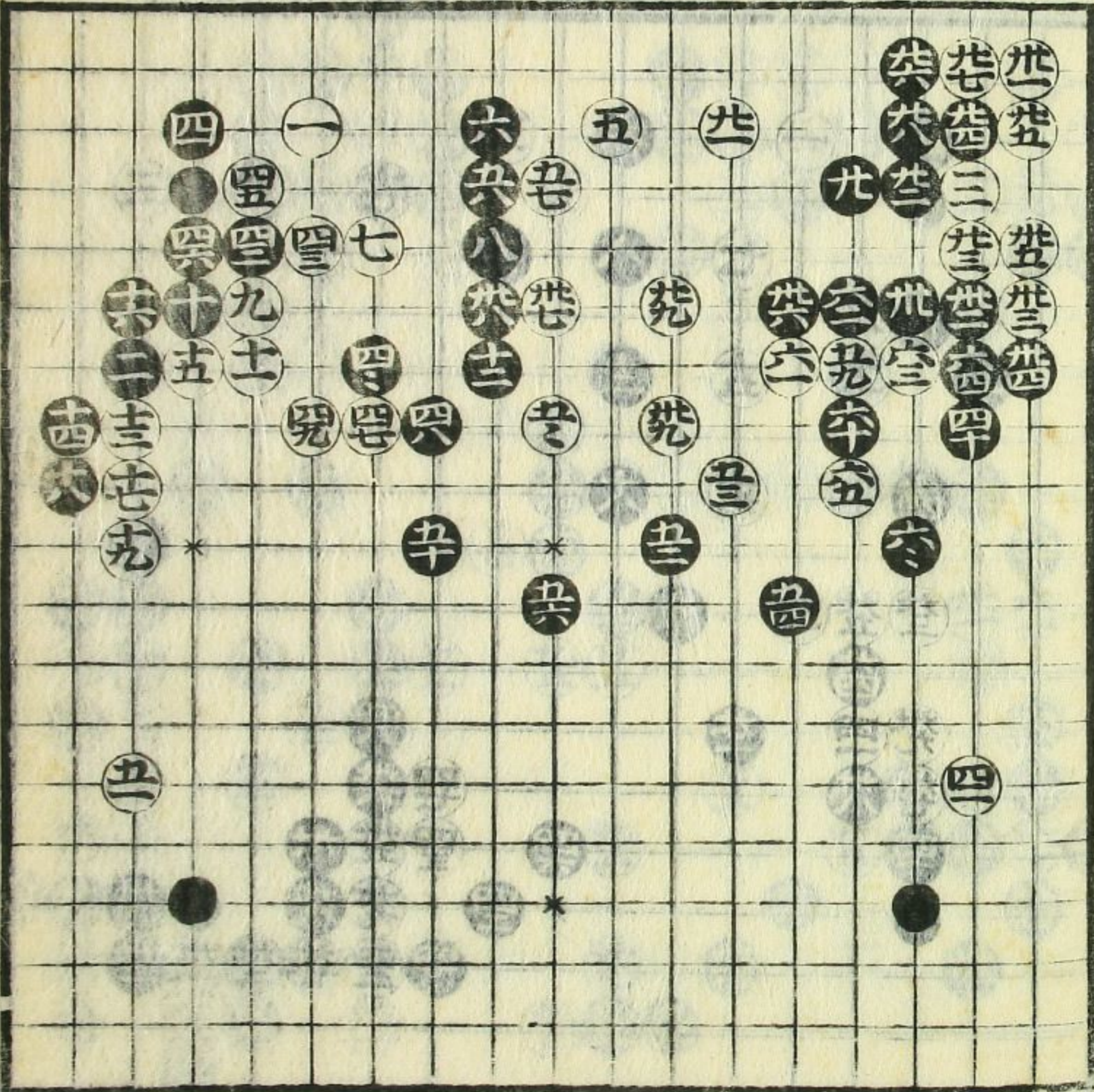




碁立續節後篇卷一

六十六近

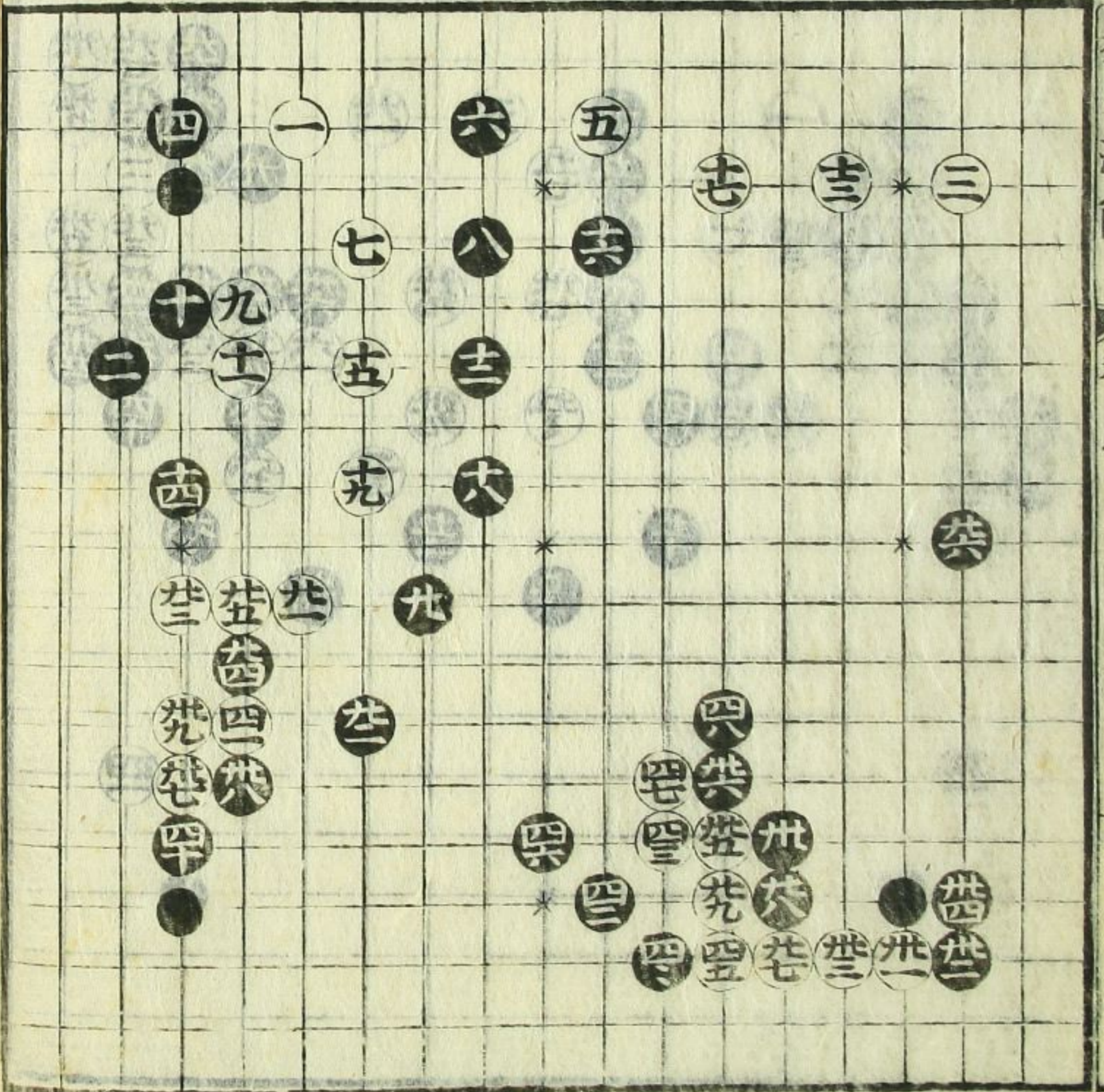
凡三石立八里之  
力とて一才一はと  
能一七石立習其  
格とて一勢ひに  
作ひて或は法くせう  
或は入身とて少  
傍負と昂附とす  
石の法さかたて  
八地とてつは位  
負をせりとの有  
まうれもなゆ石  
まをこつてゆ  
まのこれあつた  
四の石立とて  
下ゆとてなり  
すのふかして  
何の附とてひの  
たる負とて人



碁立續節後篇卷一

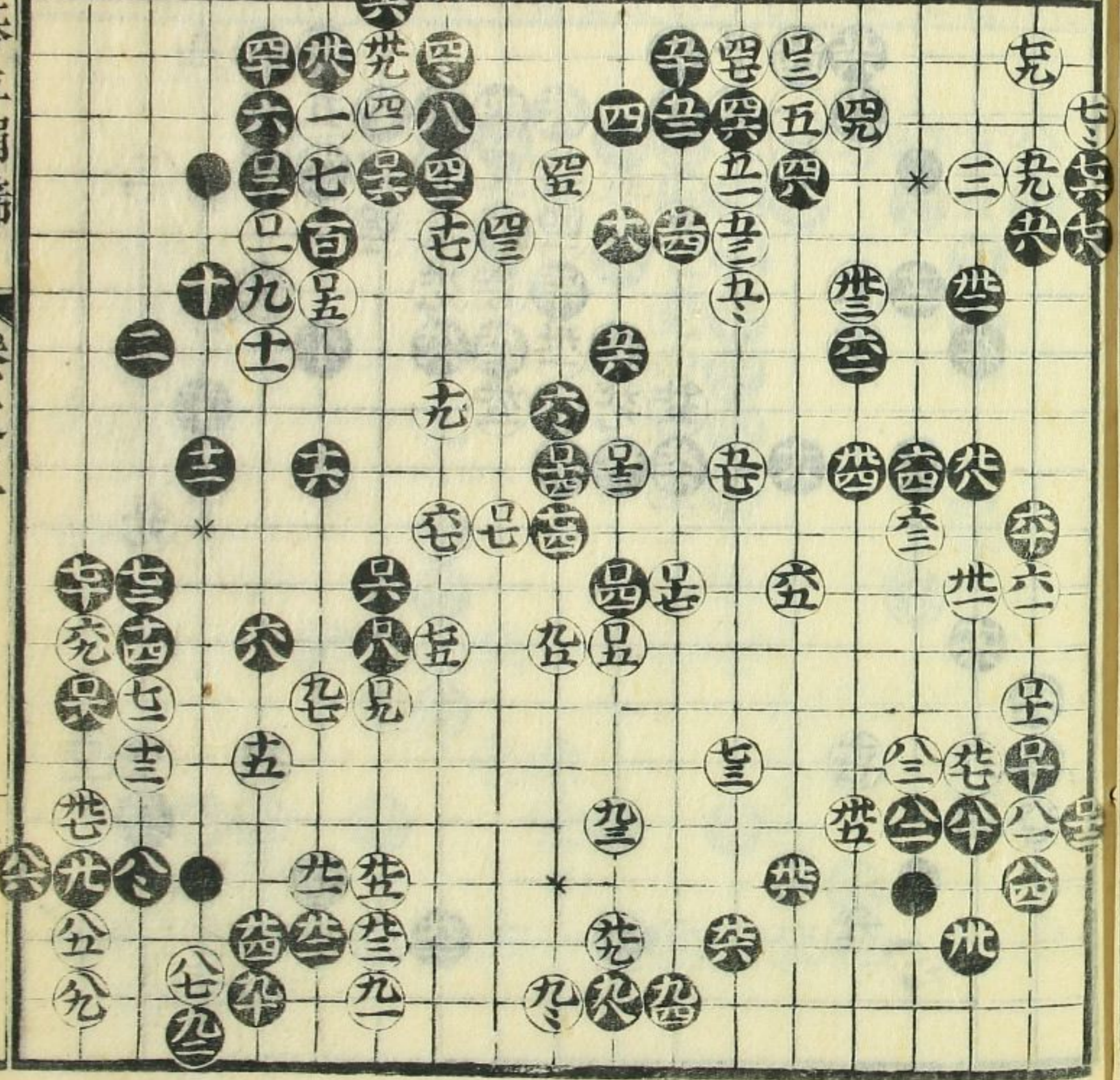
四十八と

此石立黒くを其  
て後を二つに我石  
を動かすも動く  
わしも動くすか  
しつゝのこころ  
終るるも動く  
すにわらう勢ひを  
あつちの一切の具石  
は同じとせり終  
此石を動かす位  
と地よりんる石を  
知るべし



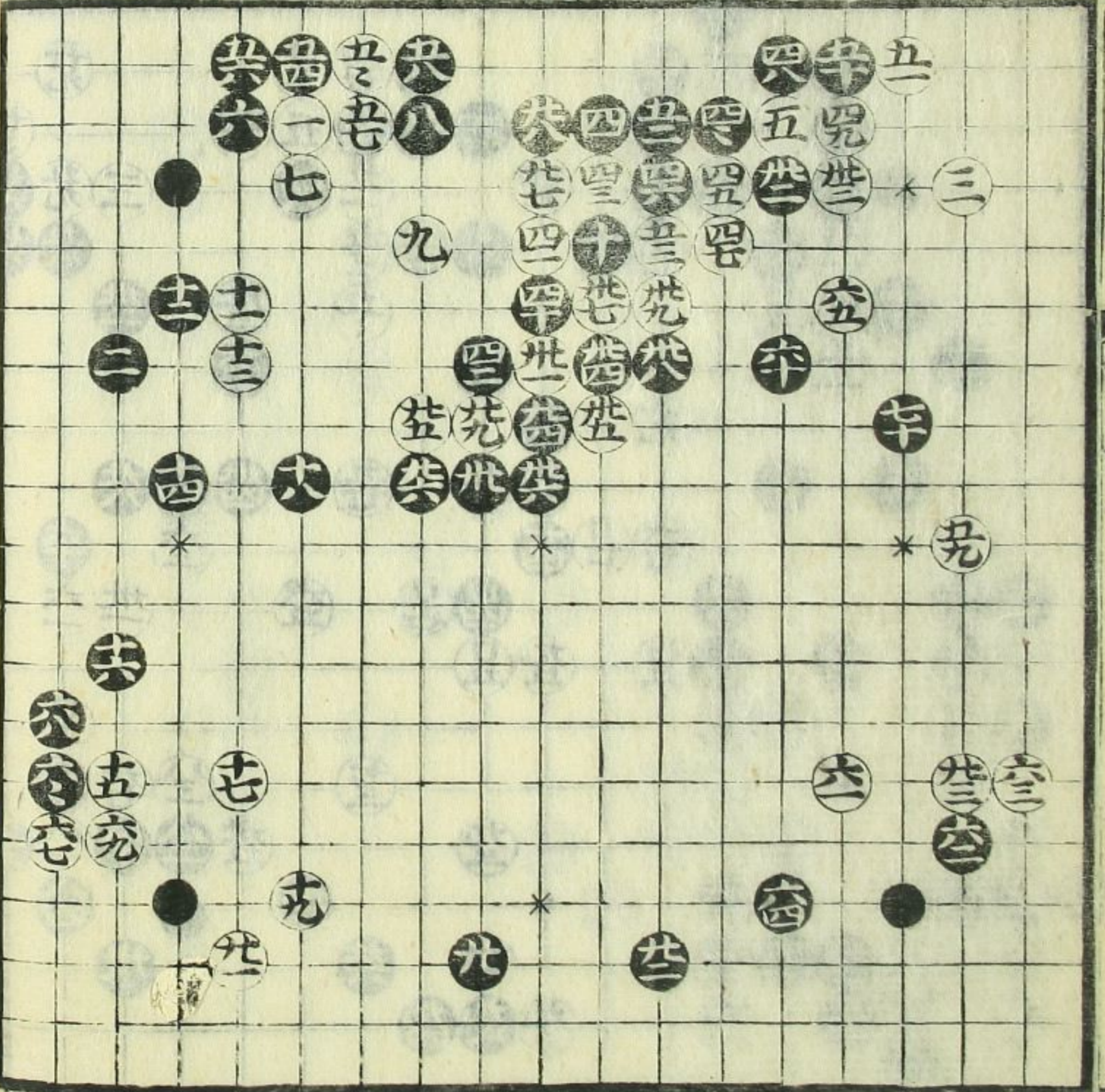
百十八迄

此石立凡二十目此  
黒勢ひを傍に  
斯のこころ常打  
とわけて我石を  
動かすわらうを  
白に見せす具石に  
力有てわらうの  
は黒にま先  
をわけてわらう  
わらうすか  
一あるは一切の有  
るはこれに練  
わけて厚さ厚の  
はわらう



七十二

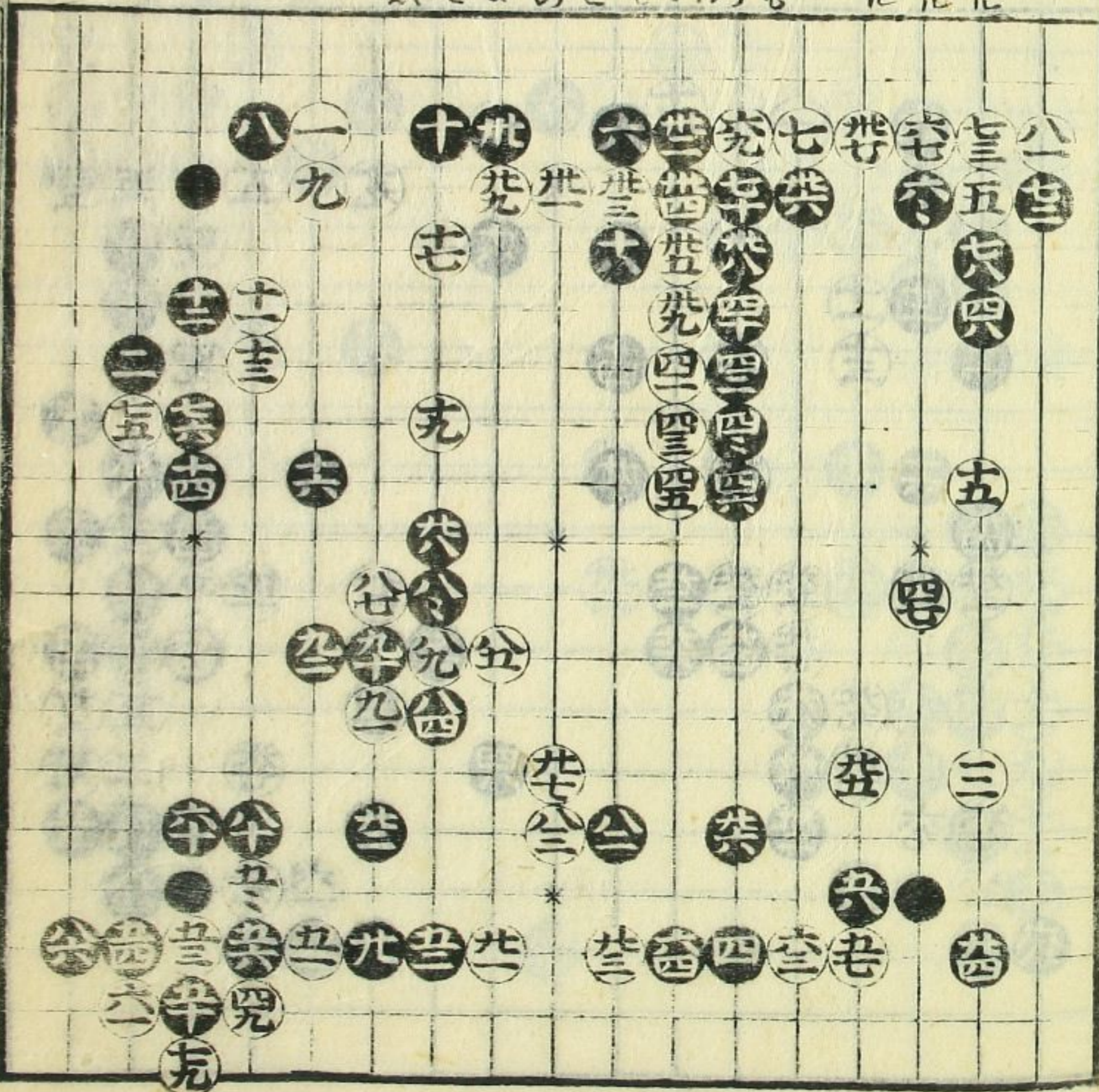
此石立八位と青一  
して置く所ありと  
せうて目立よ目の  
清きと清すの  
こく地形あり  
折る思ふ  
角を之位あり  
と勢ひはに  
也一ありて  
多一はと  
款の石を  
くは勝り  
地合より  
角より



九十二

九知上六  
六五上六  
七二上七  
七四上七

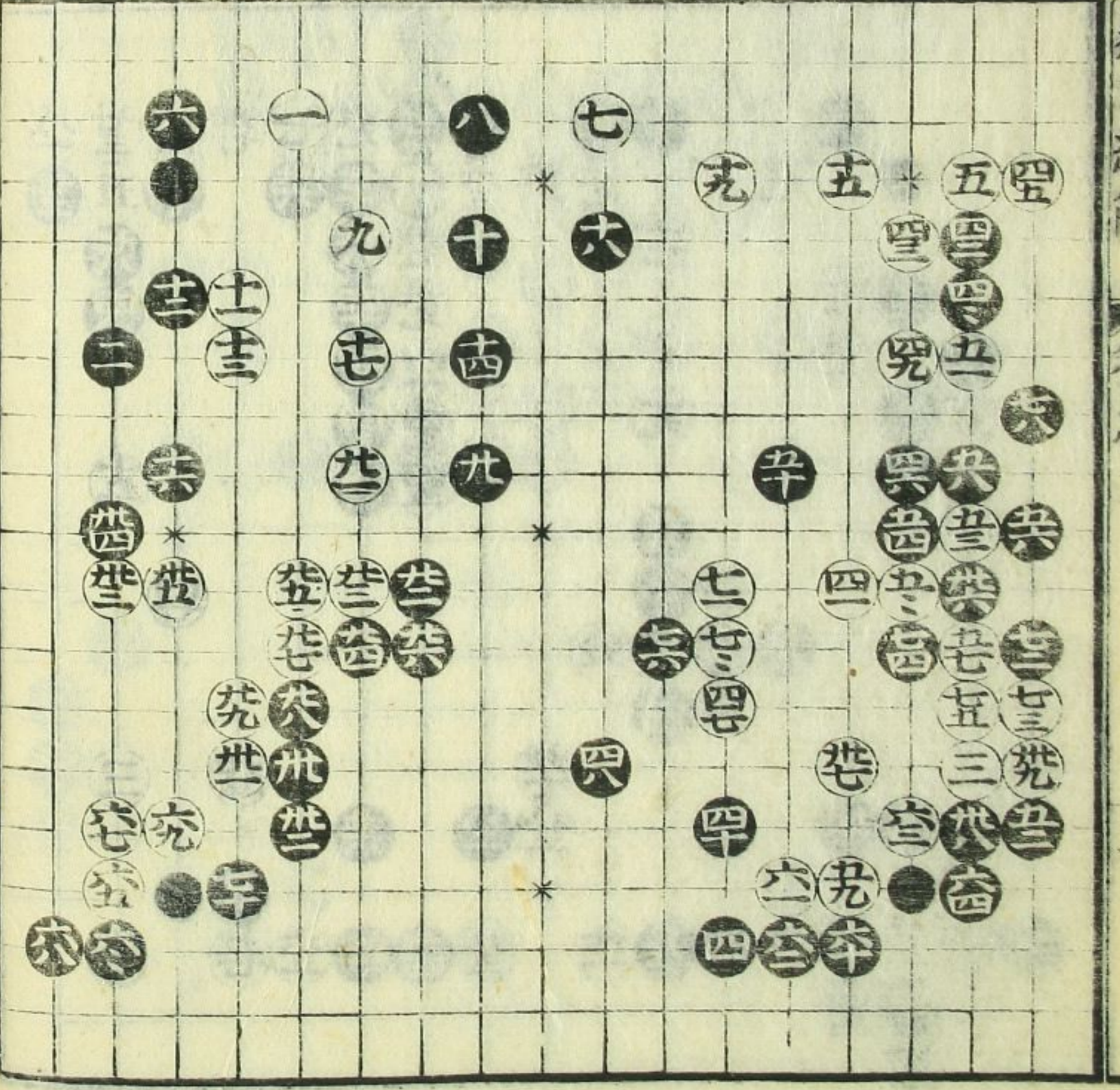
此石立八位と青一  
白の勢ひ小  
守して  
ありて  
ゆくせす  
能知て  
運の勢ひ  
基の勢ひ



書立月稀

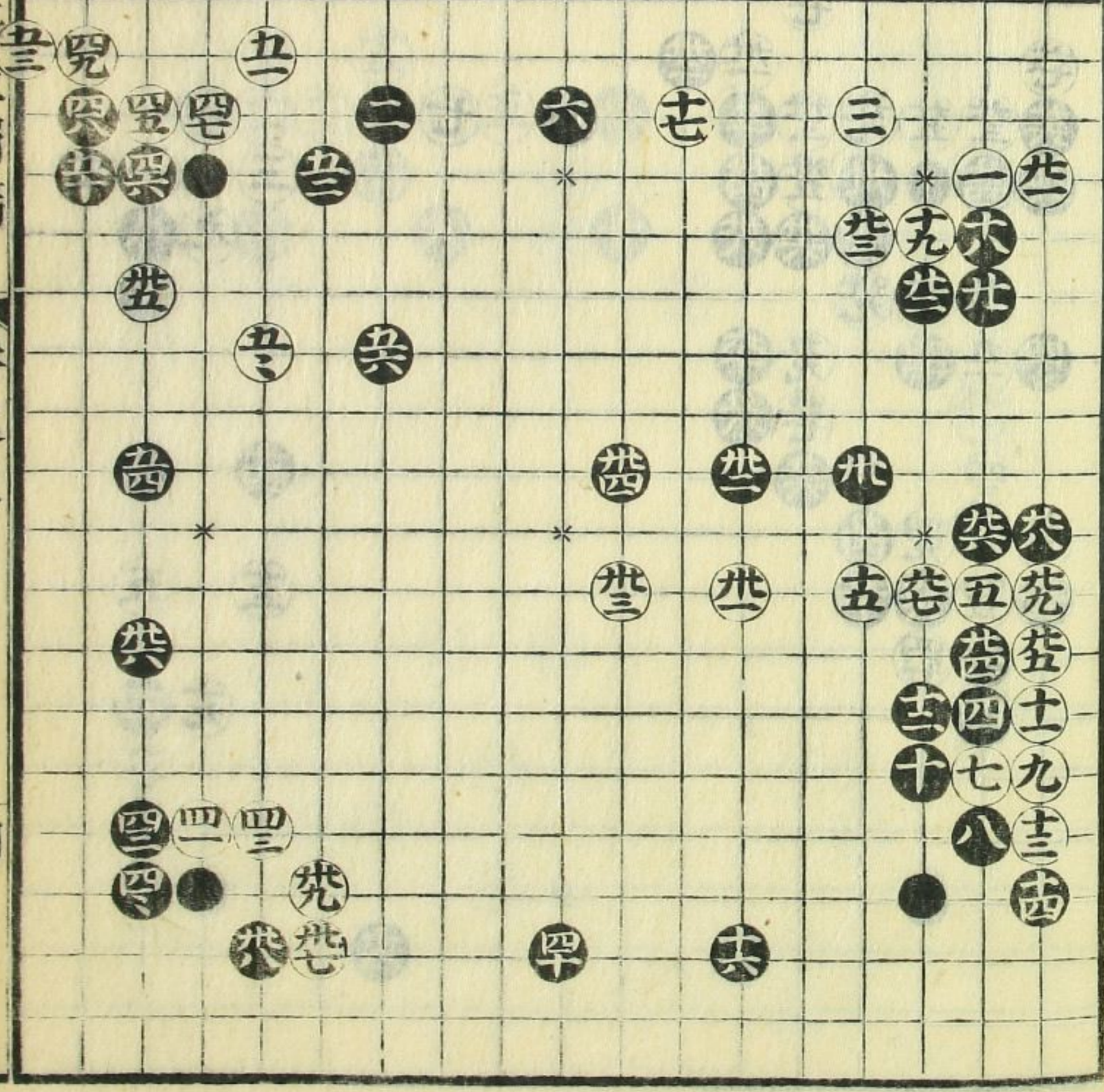
七十八と

此石立里佐を修  
 打うなれはあかむ  
 怪しむ傍へ熱して  
 白くもつと勢ひを  
 見せぬと手拂して  
 打うるに新のや  
 かりも動せぬと  
 位を以て、敵の勢  
 ひと防する一切  
 若く有(まじり)  
 打うるに、此裏石  
 の公を能く守持  
 して惜るべし



五十六迄

此石立地形より裏  
 位有てまうも終せ  
 打うるに、三十六の公  
 成能く惜るべし  
 此六の石を二枚の  
 石立込合して打又  
 六の石、位を以て  
 我石とあつと、打  
 して、敵の打を直  
 て、望くまうり、終  
 止たまふると、計り  
 如故く、打時を  
 弱く、落し、手  
 は、即、附、小、負、入、ま  
 かり



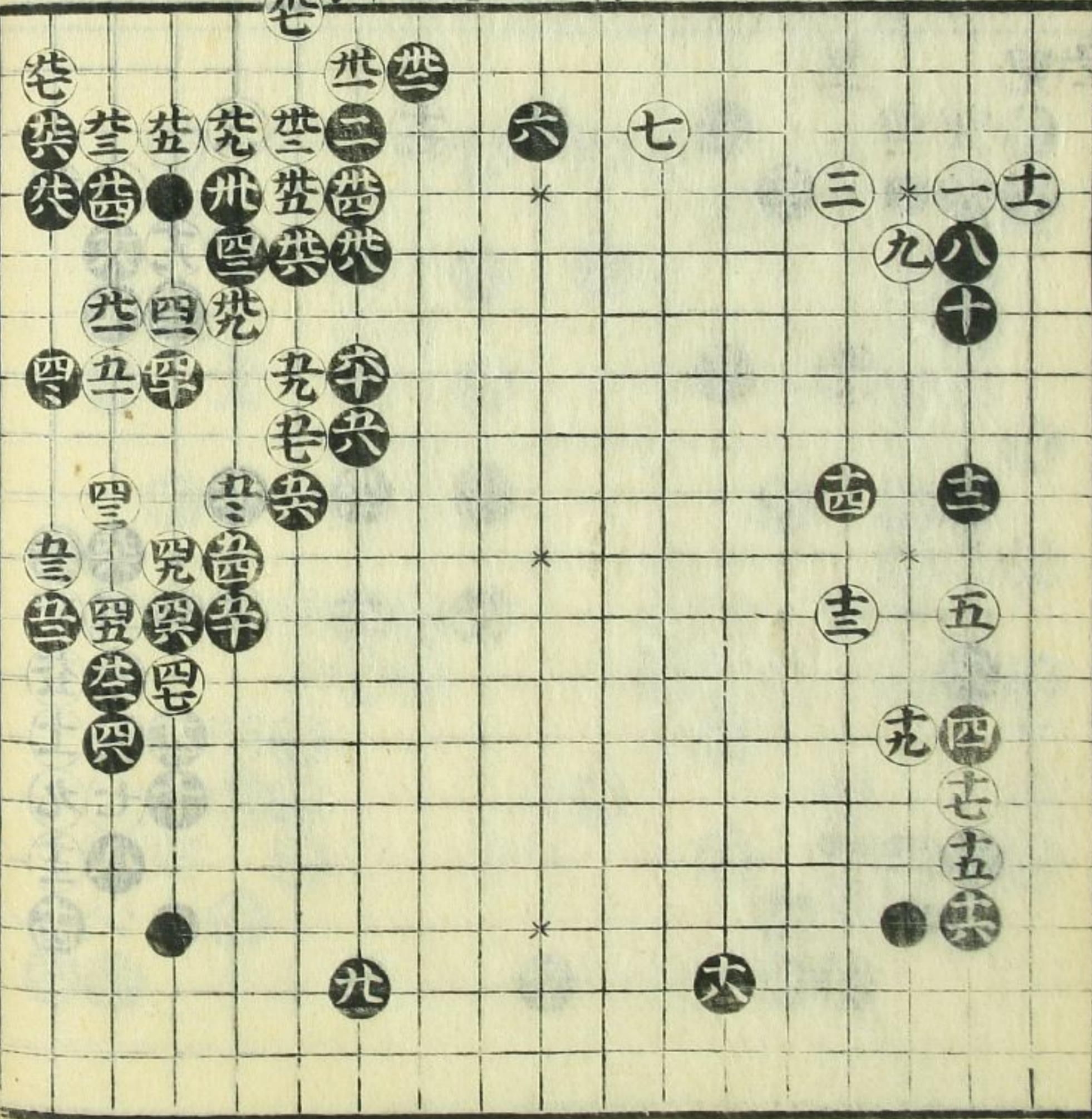
五十六迄

五十六迄

五十六迄

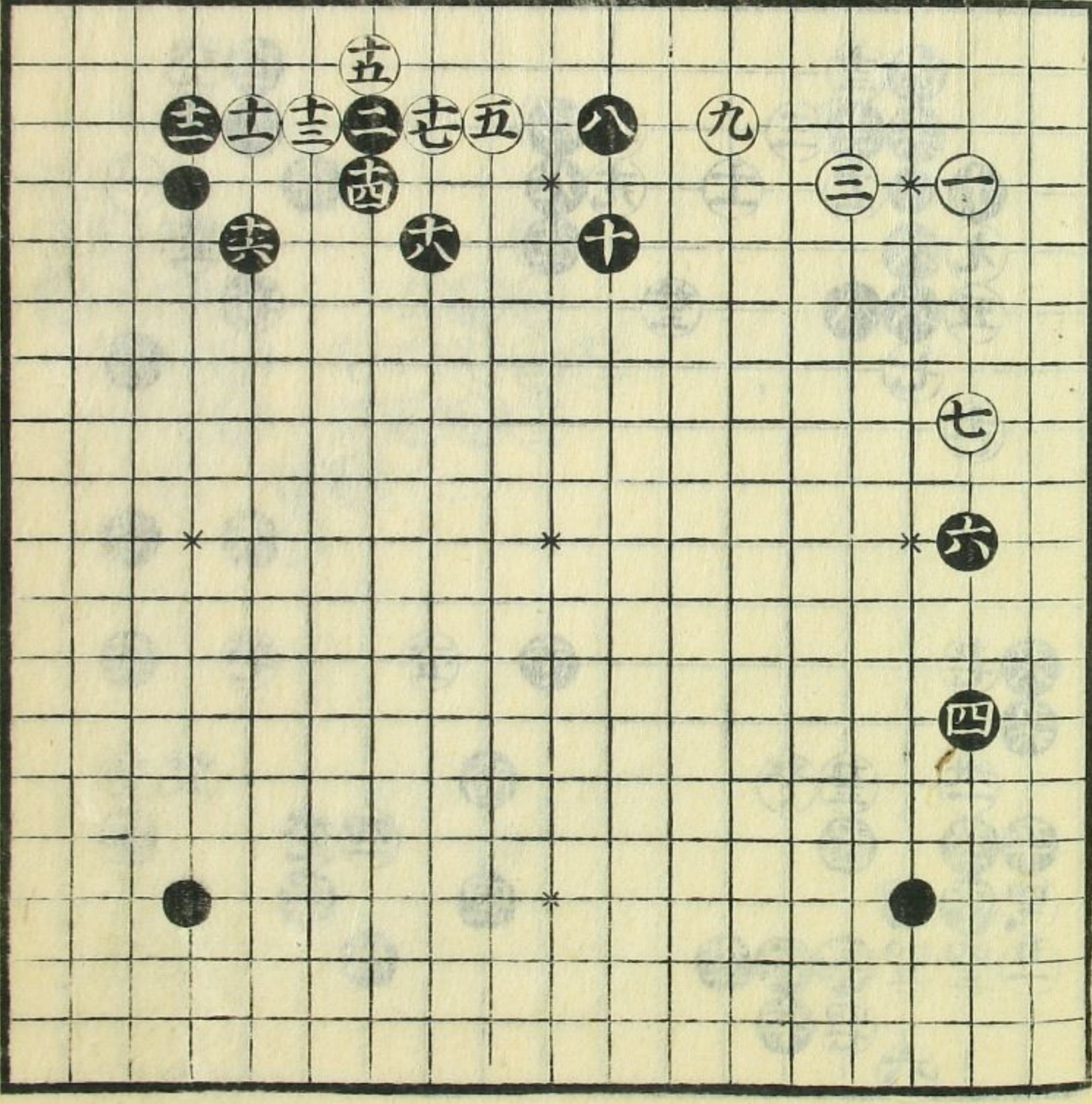
六十と

此石喜勝を離て  
 打とて其公何は  
 して其公何は打  
 して其公何は打  
 して其公何は打  
 して其公何は打  
 して其公何は打  
 して其公何は打  
 して其公何は打  
 して其公何は打  
 して其公何は打



十八と

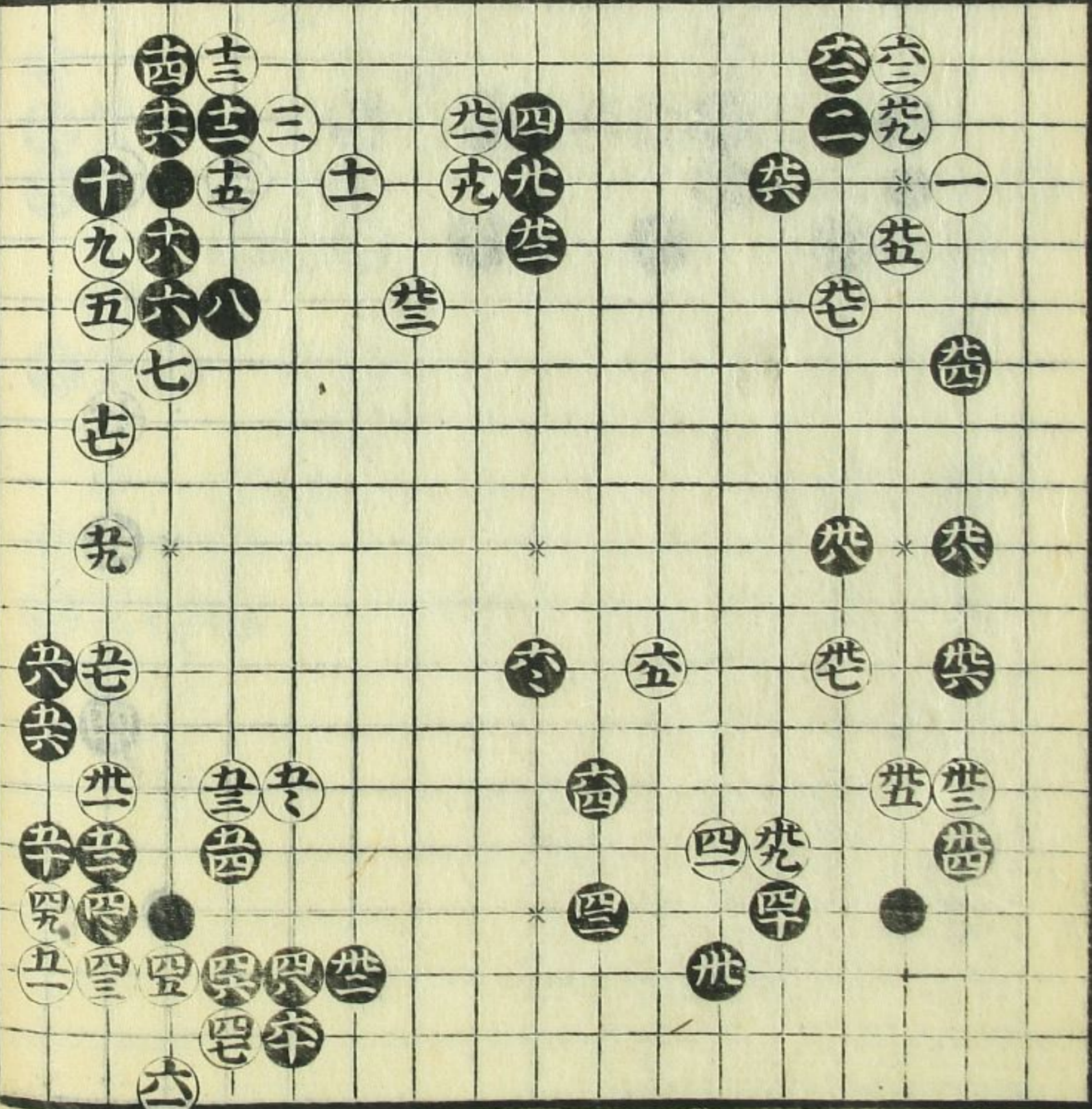
此石立定石小て  
 二の基と白を  
 角々大は勢ひ打  
 る白を角々の石  
 立形のことと  
 方々を白を  
 残消するは他は  
 白打さるは黒は  
 消するは白は  
 するは白と角と勢  
 ひ打さるは黒は  
 打さるは黒は  
 打さるは黒は  
 打さるは黒は  
 打さるは黒は  
 打さるは黒は  
 打さるは黒は  
 打さるは黒は  
 打さるは黒は  
 打さるは黒は



六十六と

白の角を  
守りあう  
の事

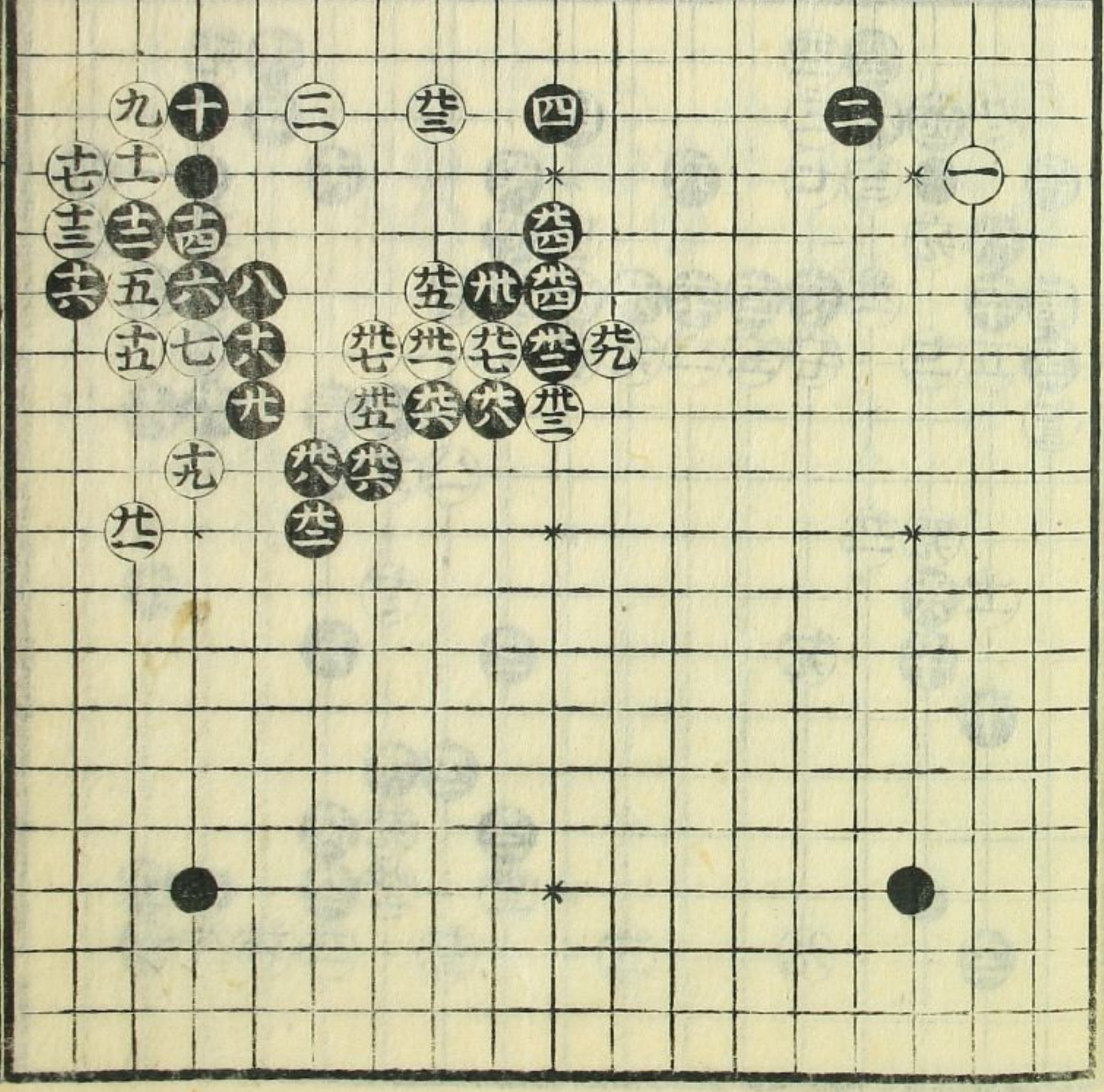
此石立白の角を  
守る位よくして  
守らうと事なり  
よる白守り身  
守りて我石を  
守らうと事  
なり守り勝る  
なり



二十八と

白の角を  
守りあう  
の事

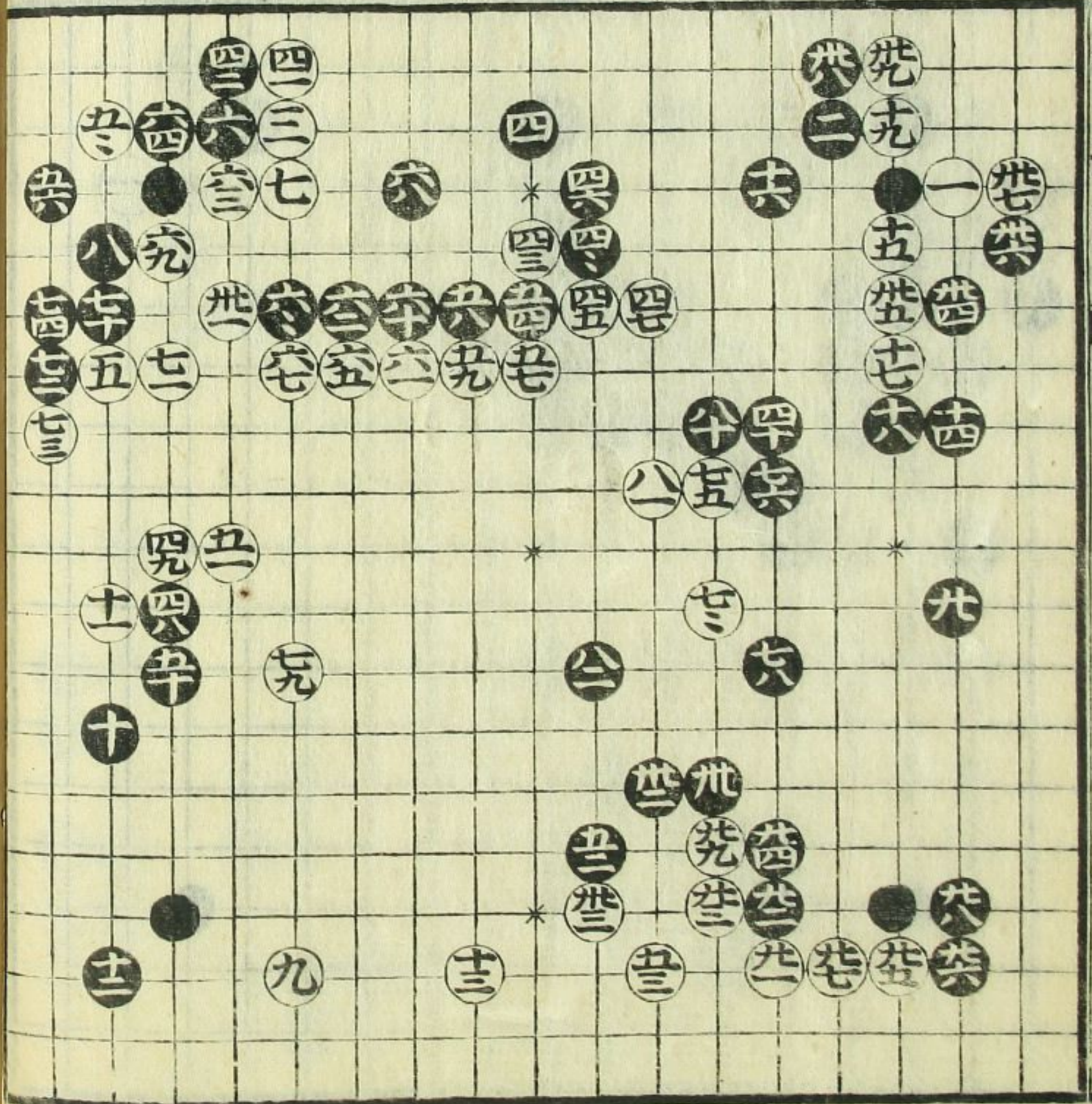
此石立白の角を  
守る位よくして  
守らうと事なり  
よる白守り身  
守りて我石を  
守らうと事  
なり守り勝る  
なり



八十二と

白の角を  
清す  
の事

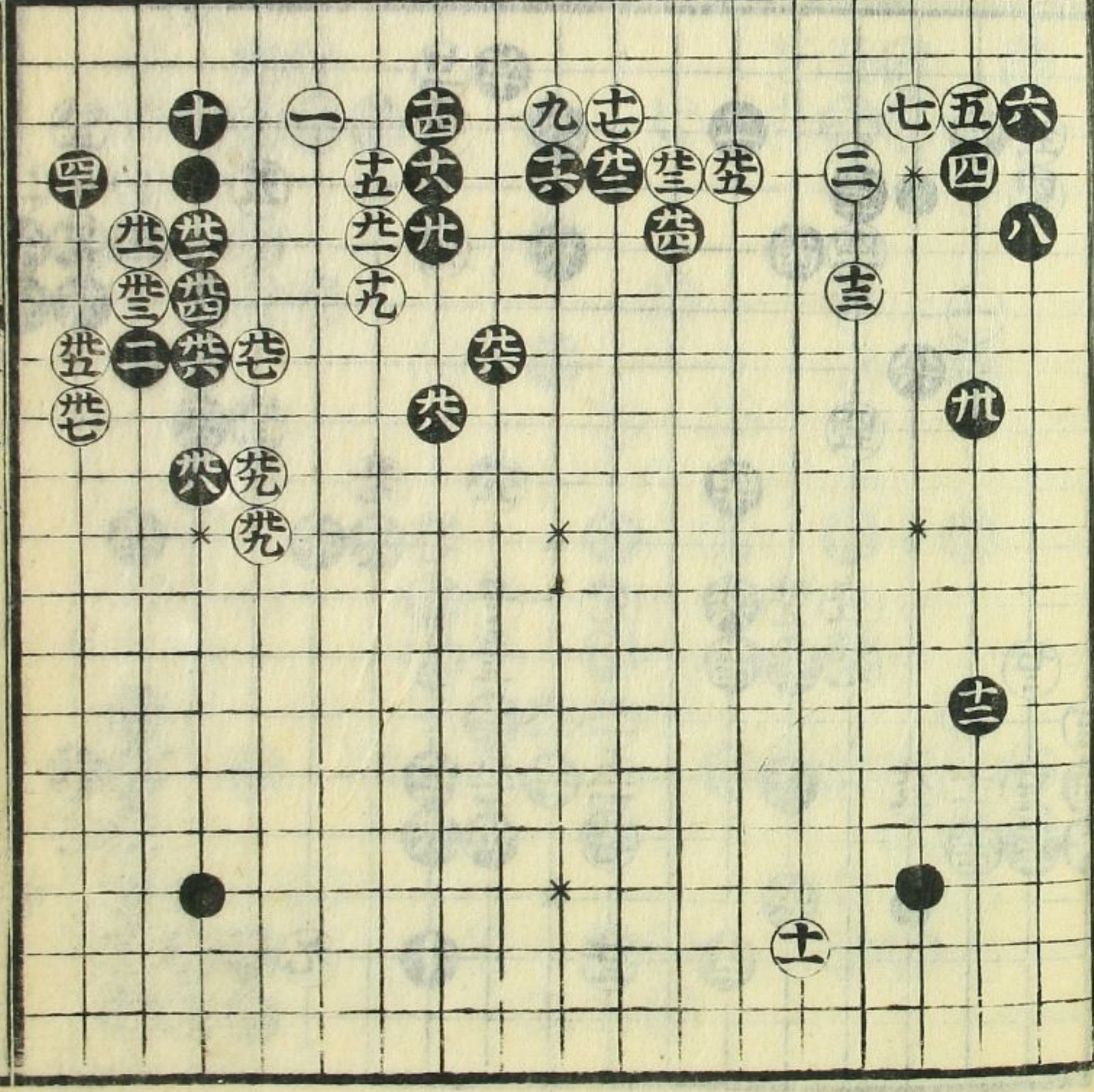
け石立黒の角を  
白の角を清す  
の事  
このこと始終  
して打つる能  
くは練へるなり  
秘言古本地形と  
知るるなり



四十の事

角を清す  
の事

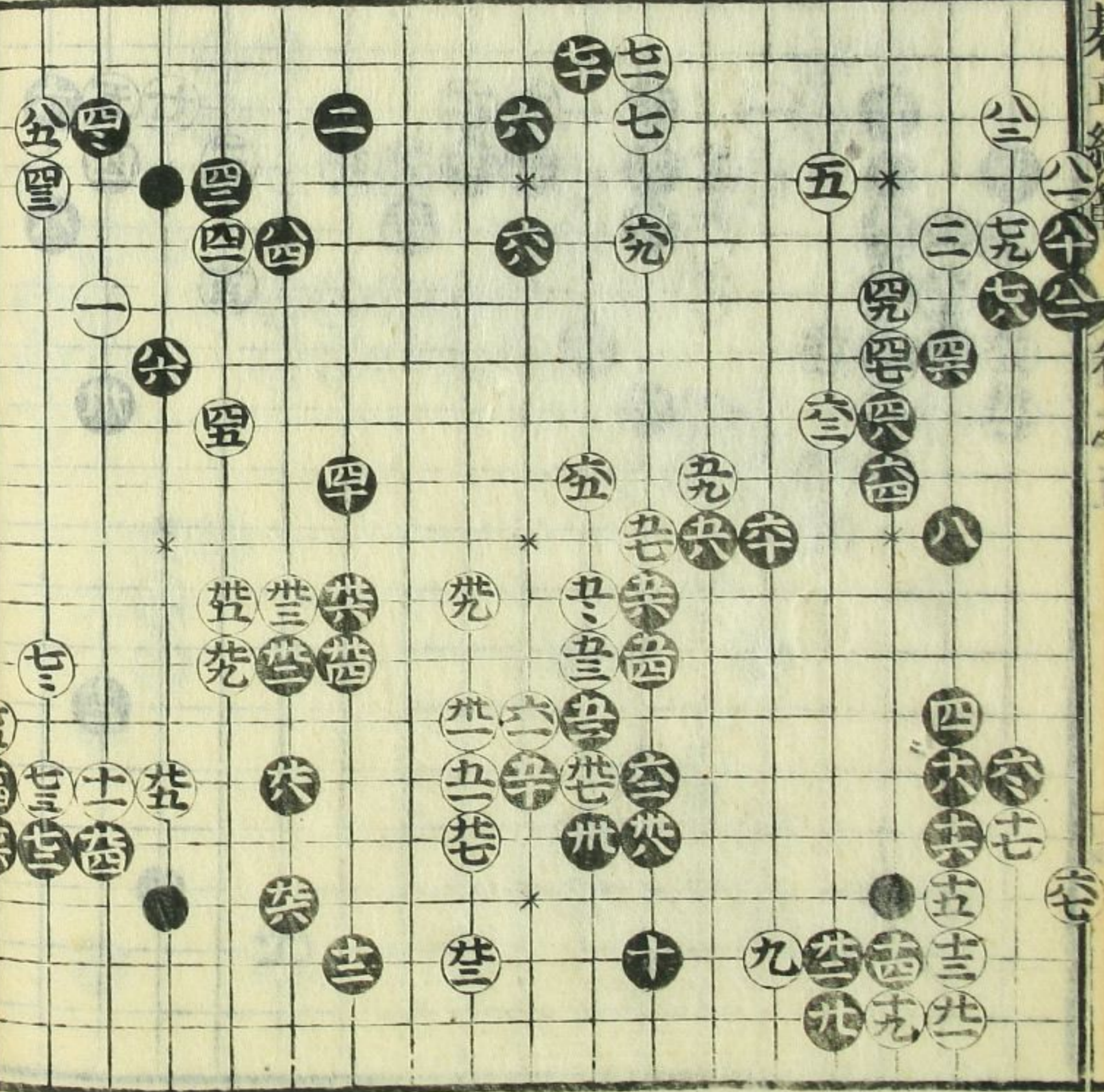
此石立たの角黒  
地を破らんと白は  
打たれれば黒其  
角を清す用と  
この守中の位を  
白の角を清す  
を河へくはる也  
秘言古本地形と  
知るるなり





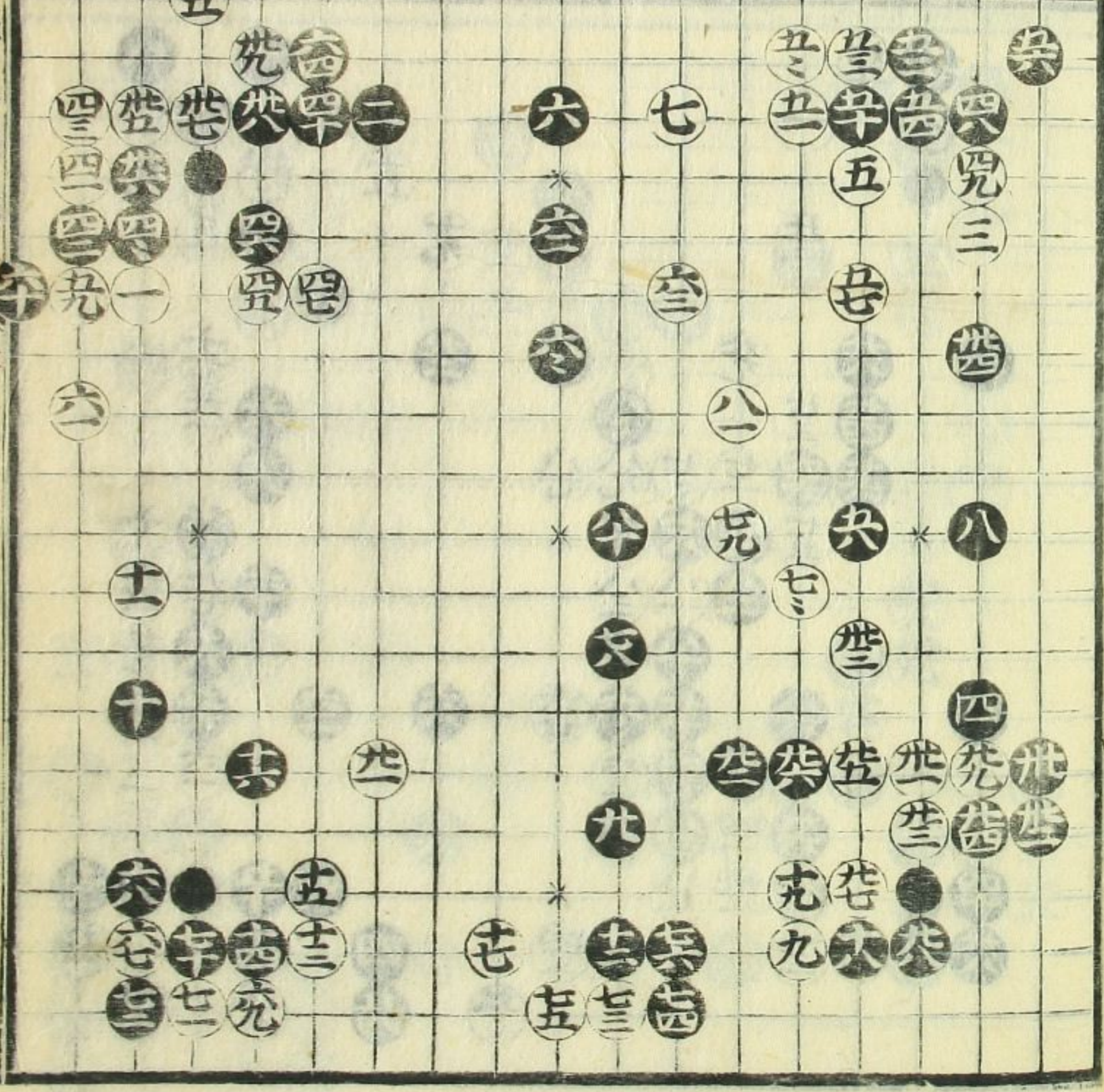
八十六と

碁立白子大に位  
を取てをこえて  
少しと黒打小  
少くも動する  
地を分て先を  
早使たりこの  
是少てをせし  
すしてはねく  
傍るを知らし  
是別るをせし  
はくし強打  
不を以てする  
たりりしをせし  
其を知らし  
く厚なり



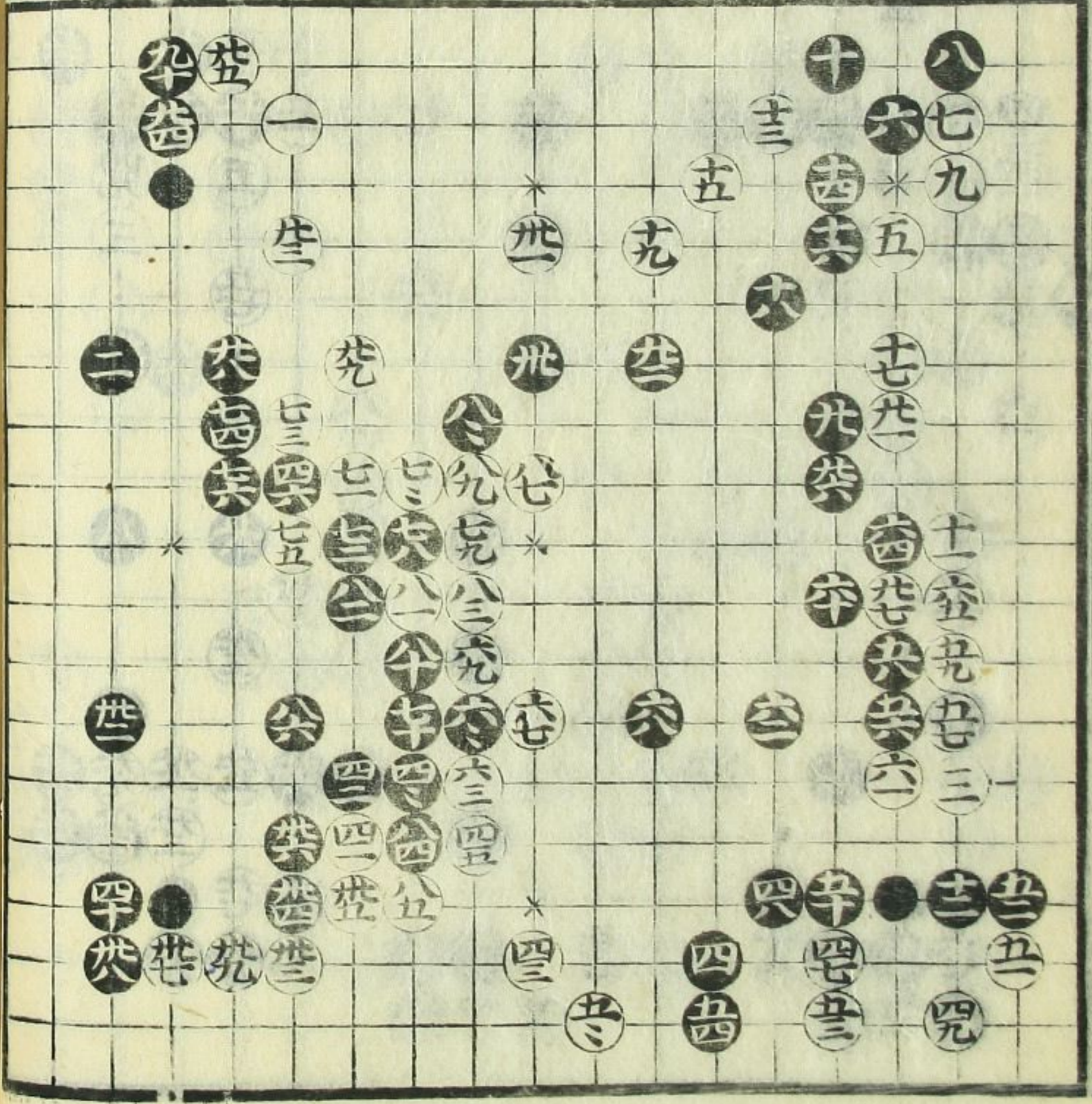
八十一と

碁立白子大に位  
是少てをせし  
強く少くする  
白を以て結打  
はくし強打  
時ハ必過なり  
この白ハ先  
他其か  
のこく  
は白  
は白



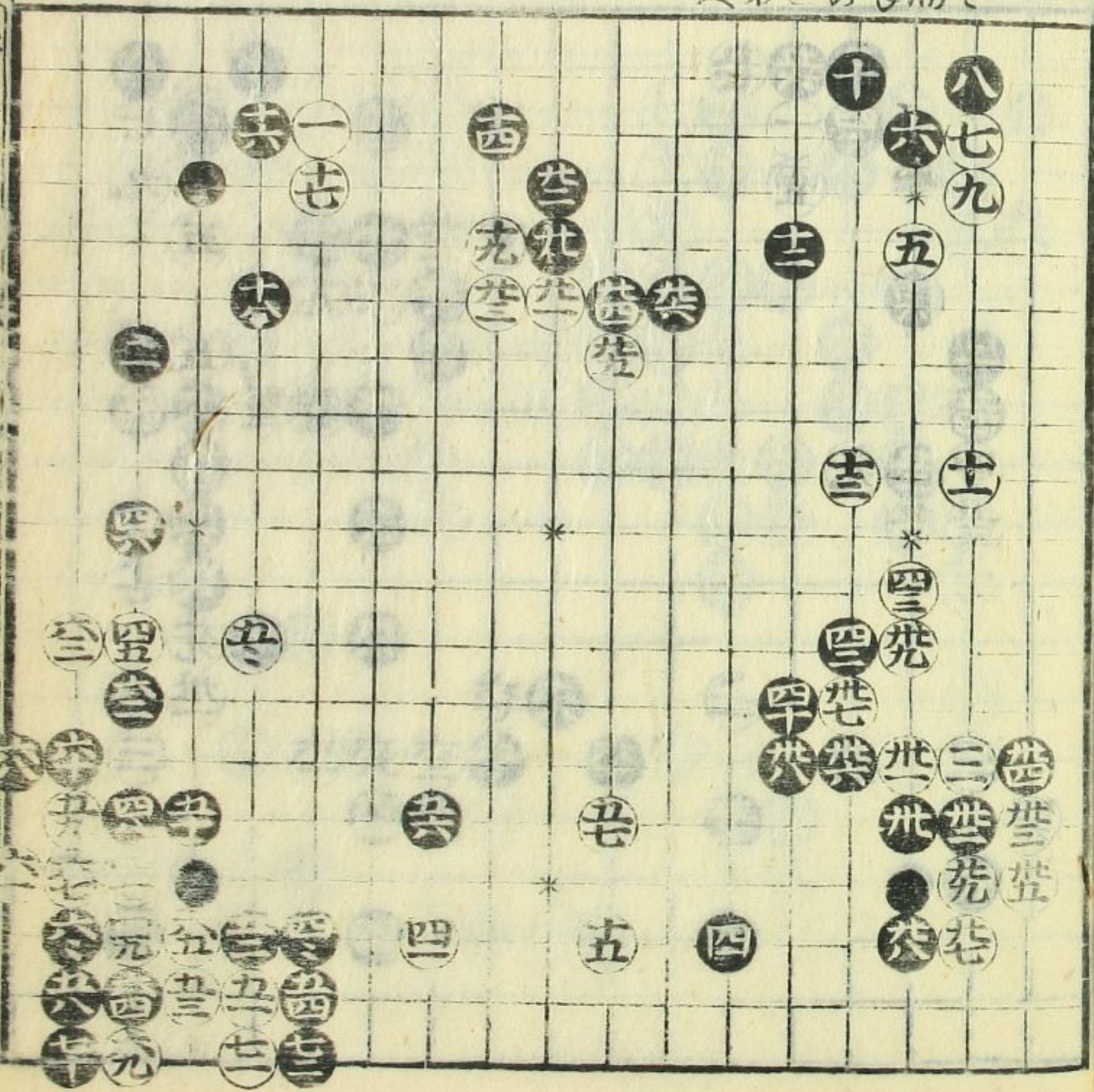
九十

碁石立黒子の初手  
をあらう打をいふ  
後打は先碁基と  
悟りては小碁打り  
物しては碁の素  
十日の勝を八日勝  
とては危る  
たきやうに勝事  
成すことす



七十二

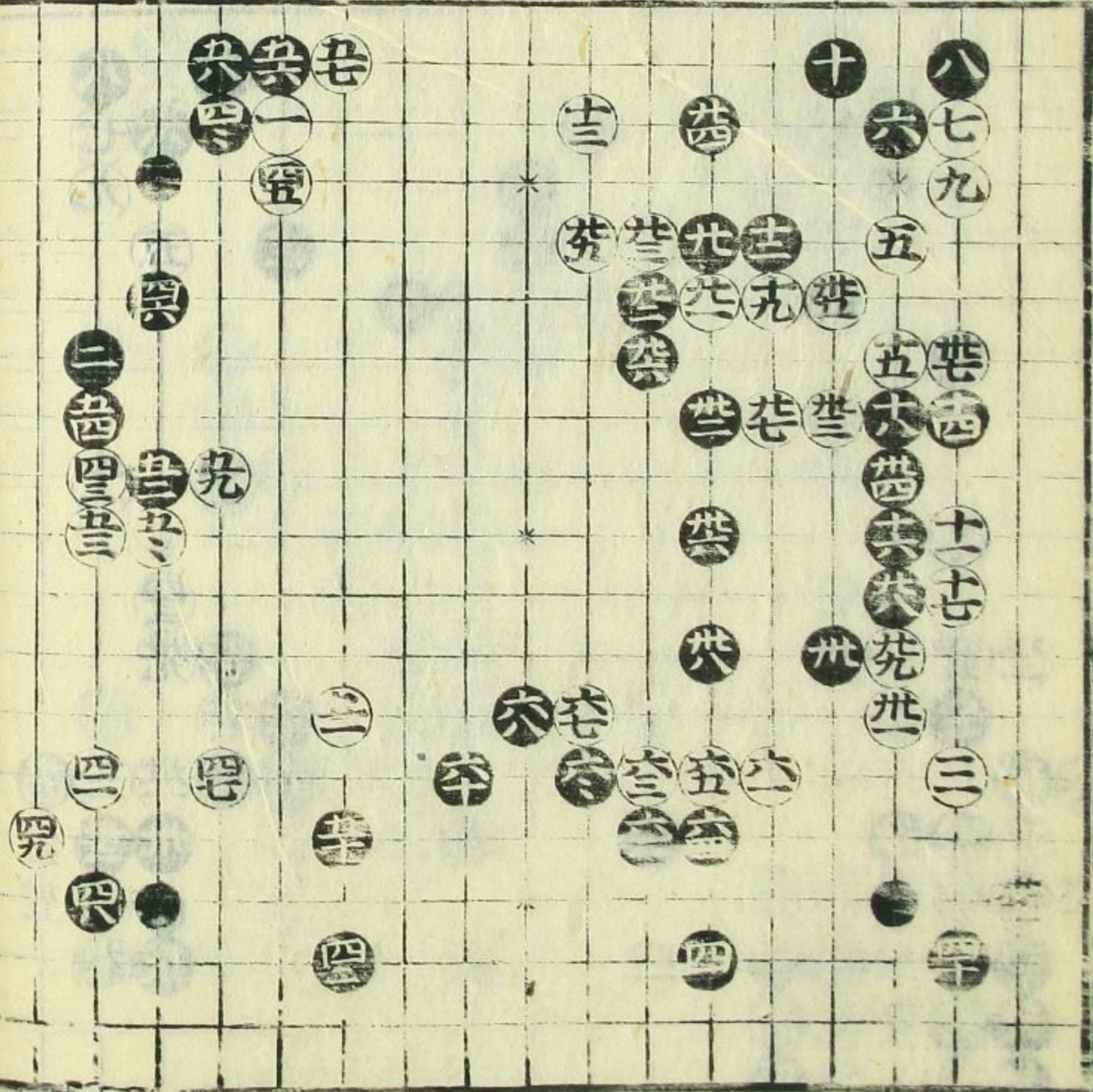
碁石立赤ま同  
りとも強くせう勝  
るは碁の素  
物に強くして碁の  
心を堅くせう也  
右の碁とめては碁  
の強弱と碁  
より



碁山綱鑑

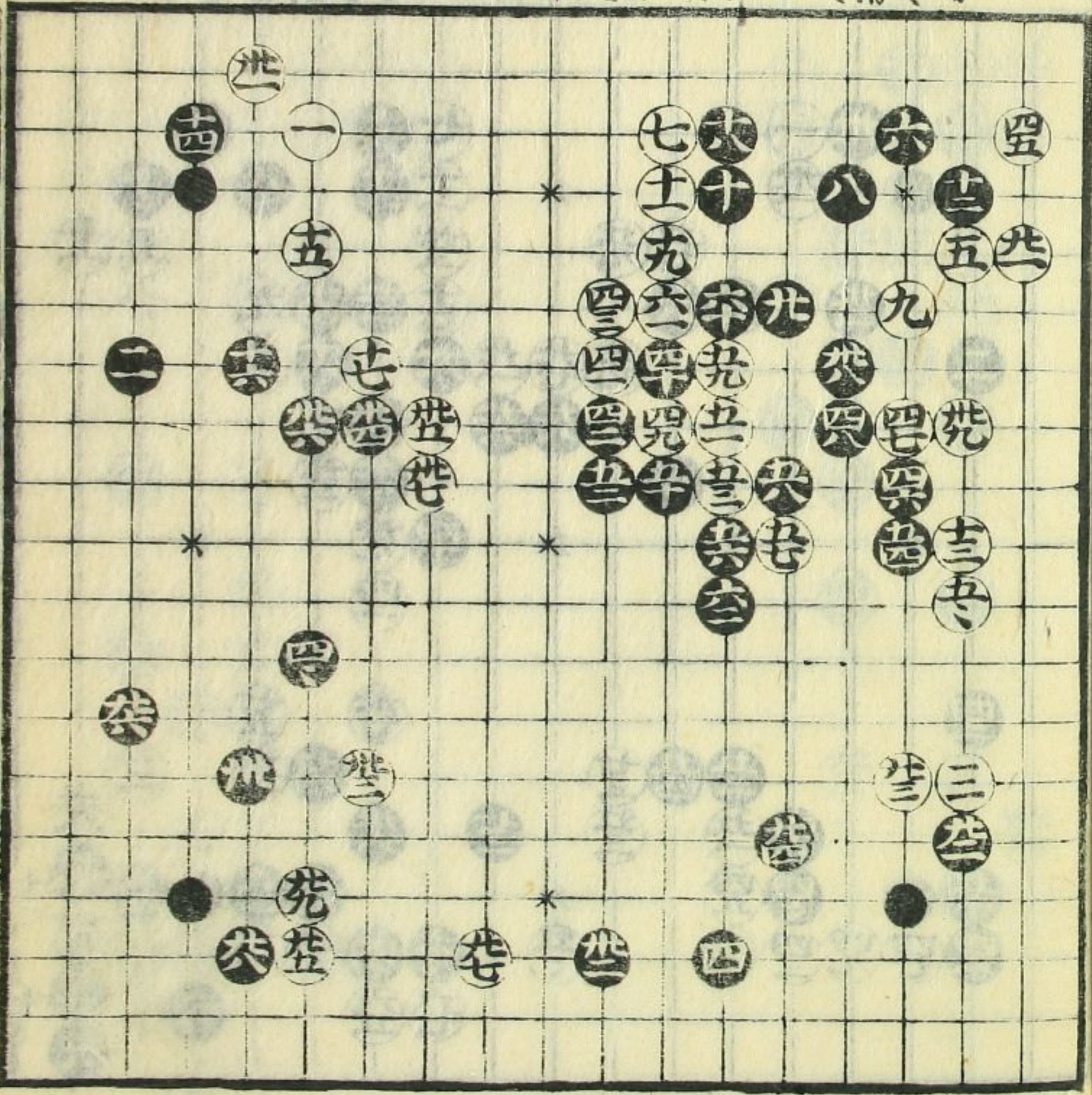
六十八の二

此石立の黒は、思はれ  
可也。と云。勝負  
見入て、此後、復も  
ほの思に、落す事  
て、は、早、く、本  
手、を、く、ま、す、事  
り、く、ま、す、事、を、  
其、月、今、思、持、つ、  
べし。



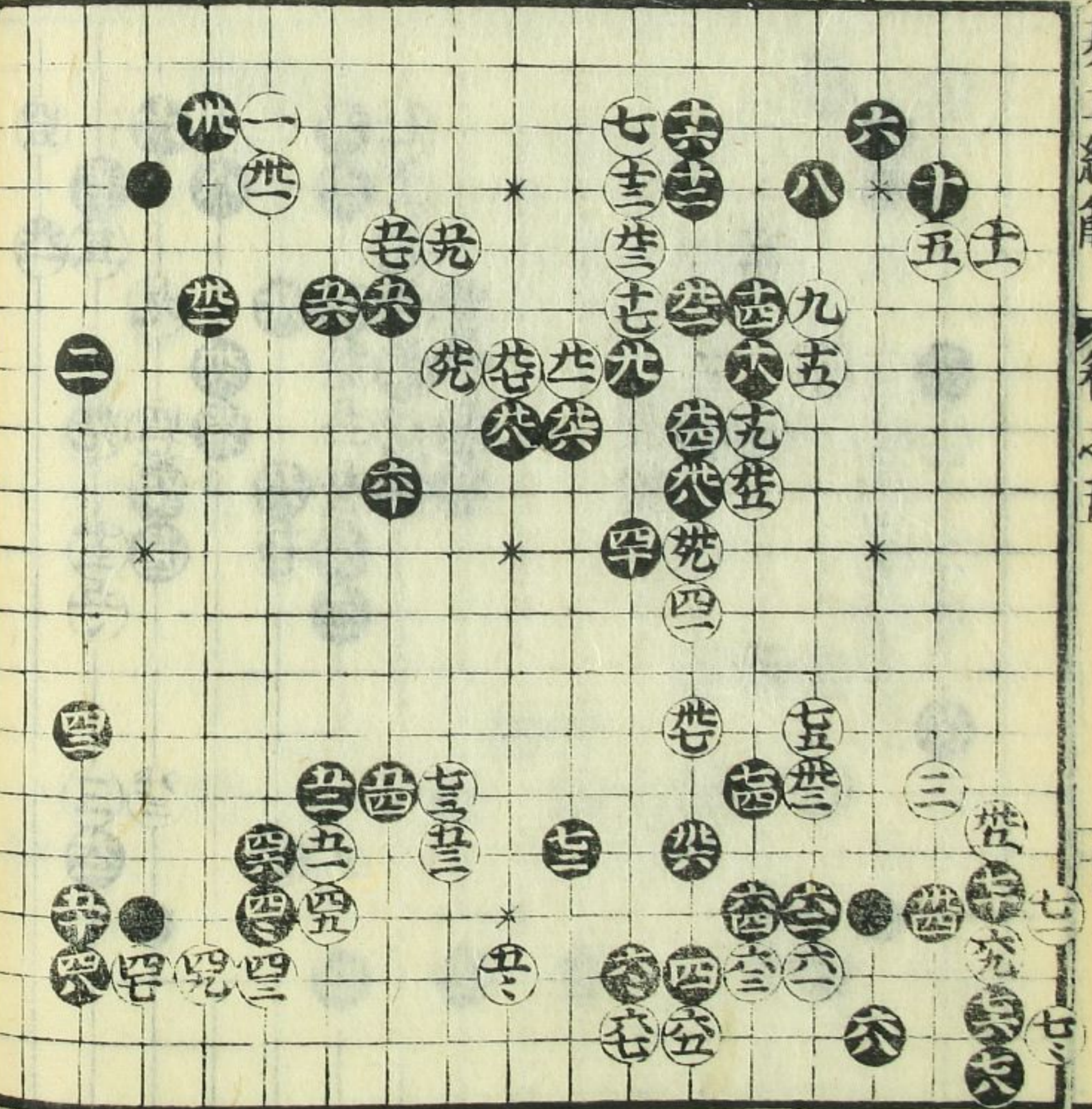
六十二の二

此石立の黒は、思はれ  
可也。と云。勝負  
見入て、此後、復も  
ほの思に、落す事  
て、は、早、く、本  
手、を、く、ま、す、事  
り、く、ま、す、事、を、  
其、月、今、思、持、つ、  
べし。



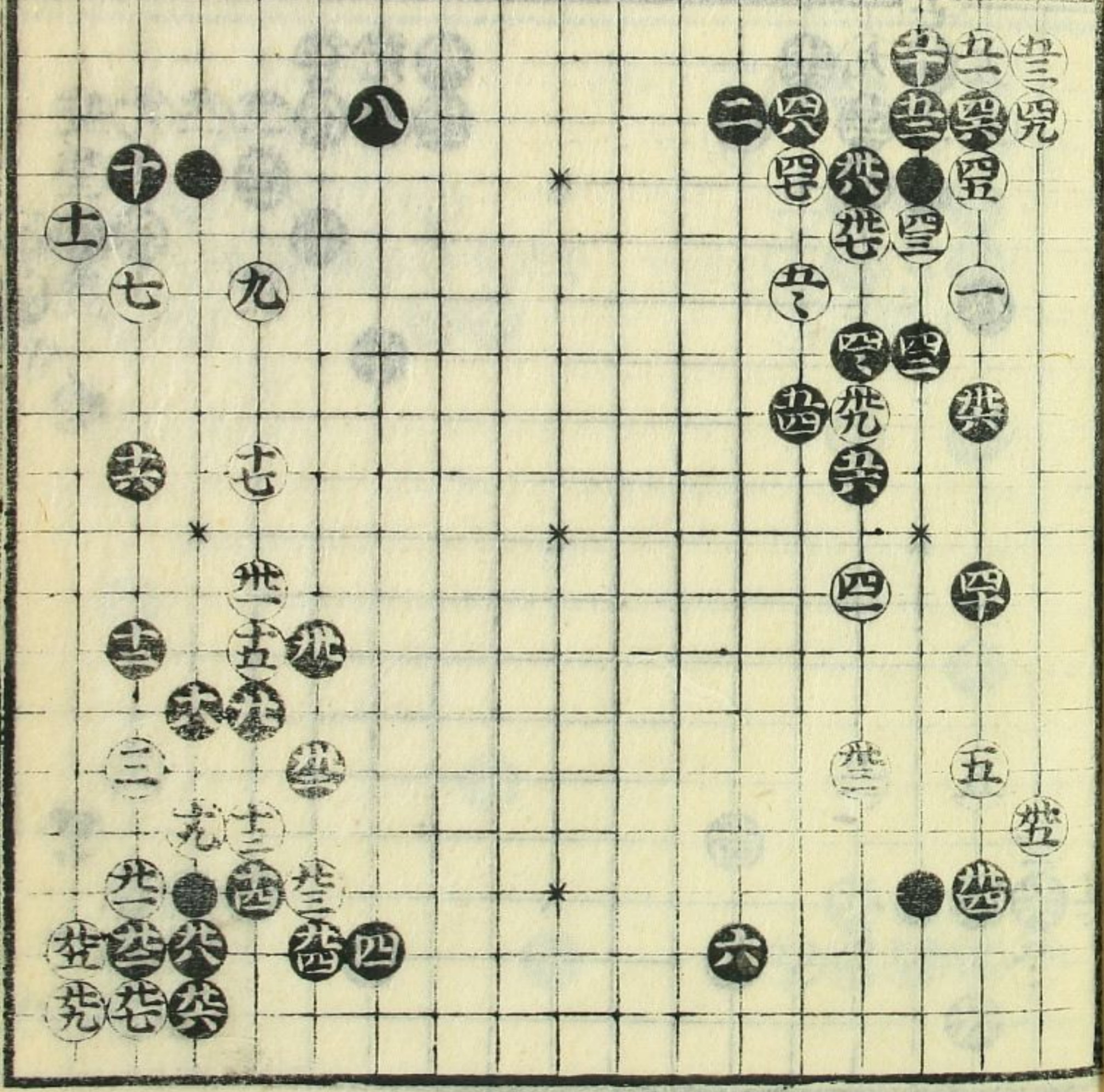
七十八と

けるを黒と黒と  
位と押と後と  
後と後と後と後と  
地と早く勢ふと黒  
は之方中基又下  
打くけ白の方押  
新し黒の勢は  
打黒白にける立  
詰るにける人  
りり黒白はか  
能くして基の大  
事ハ世の中なる  
なり



五十六と

斯のまゝに  
に打白自然と  
負ふと人し四  
五の基すて  
のこゝに打  
孫とあへ



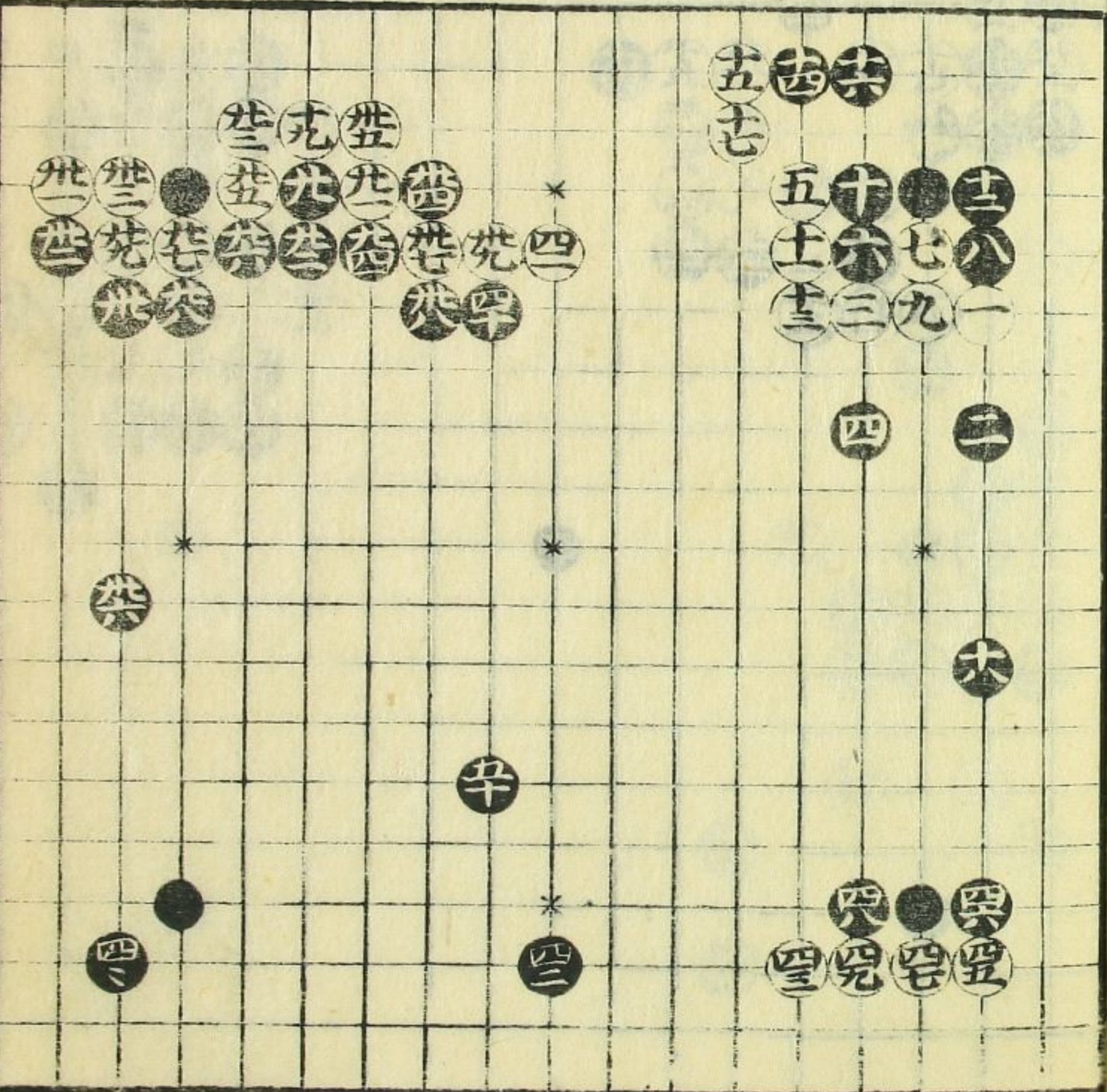
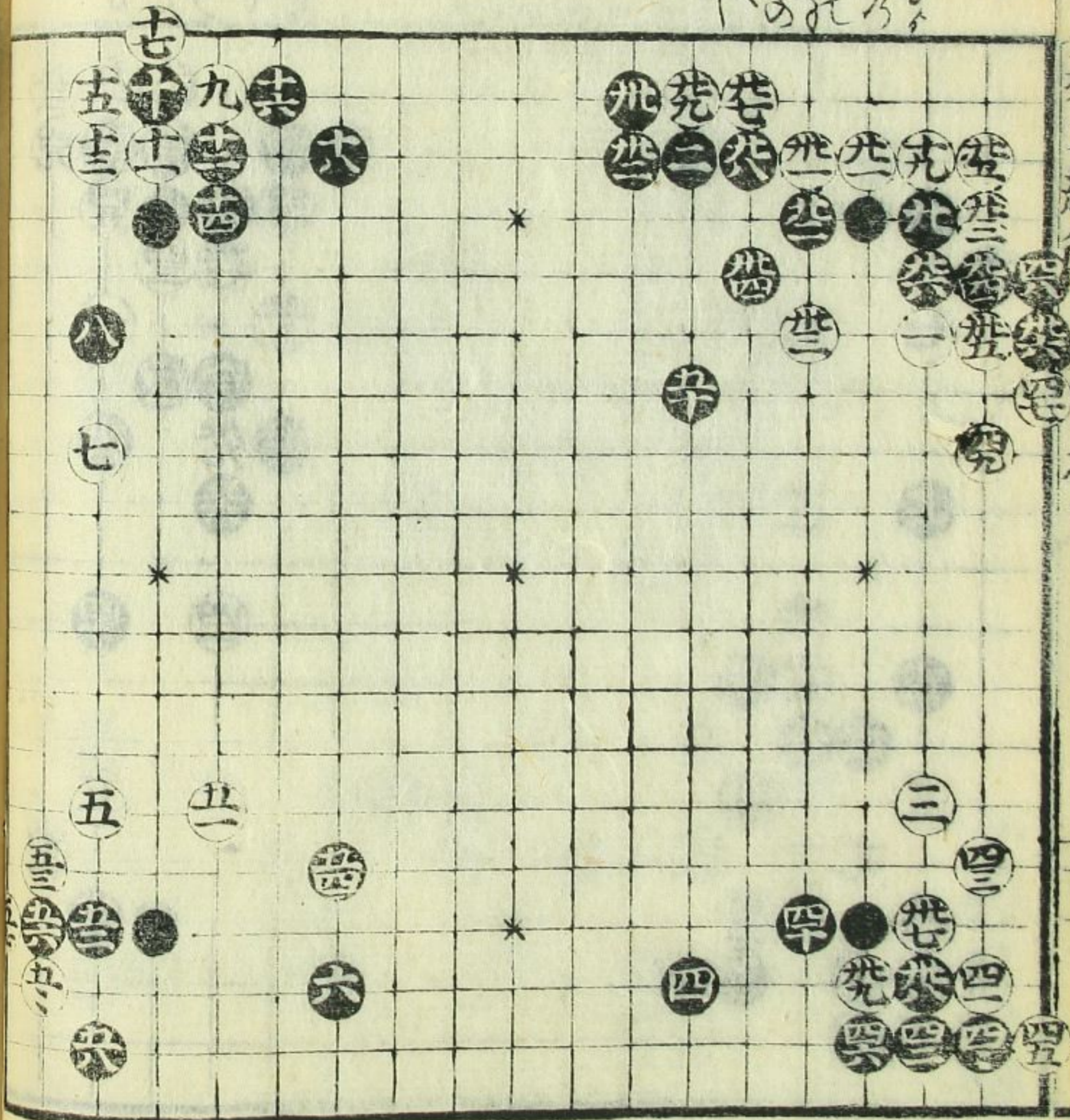
五十八まで

のこく上  
掛も黒位乃  
持はる黒十四九  
の定跡之二十八の  
の定跡とあり

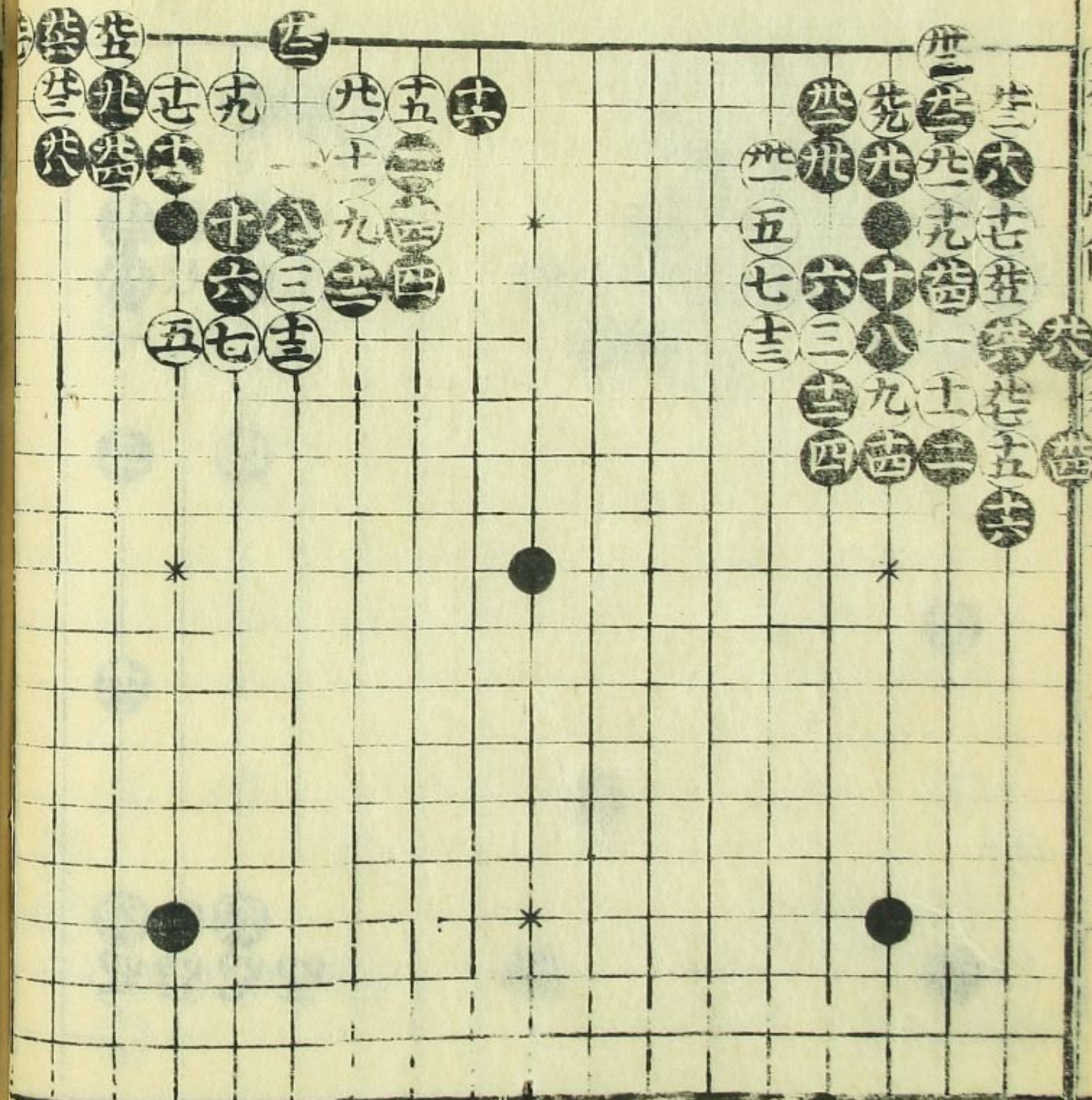
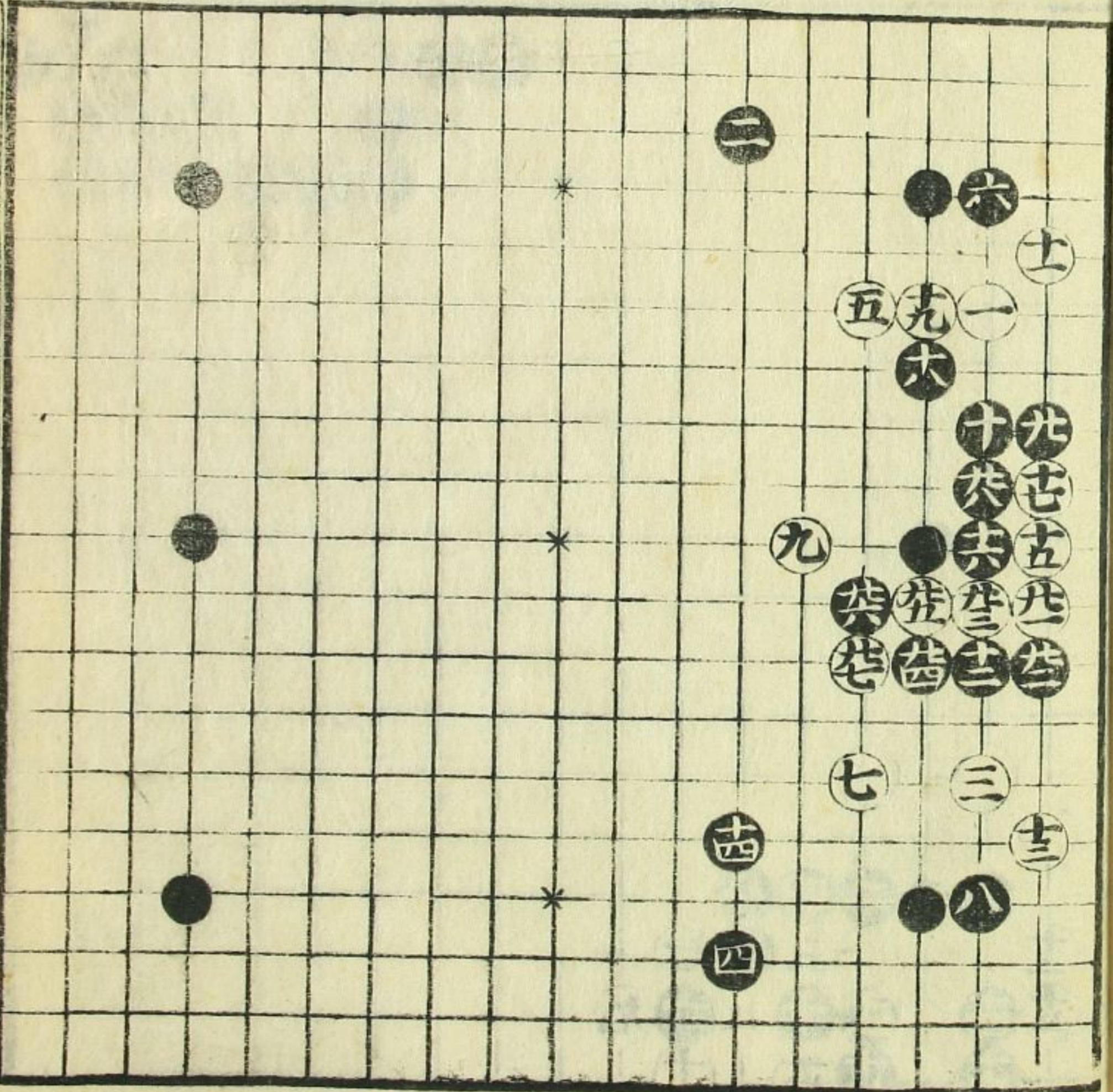
五十九の道

十四の年 吉  
十二の年 吉  
十八の年 吉  
廿八の年 吉  
卅一の年 定  
卅八の年 吉

碁立  
碁立  
碁立  
碁立  
碁立  
碁立  
碁立



十六の年 定  
 六の年 吉  
 八の年 吉

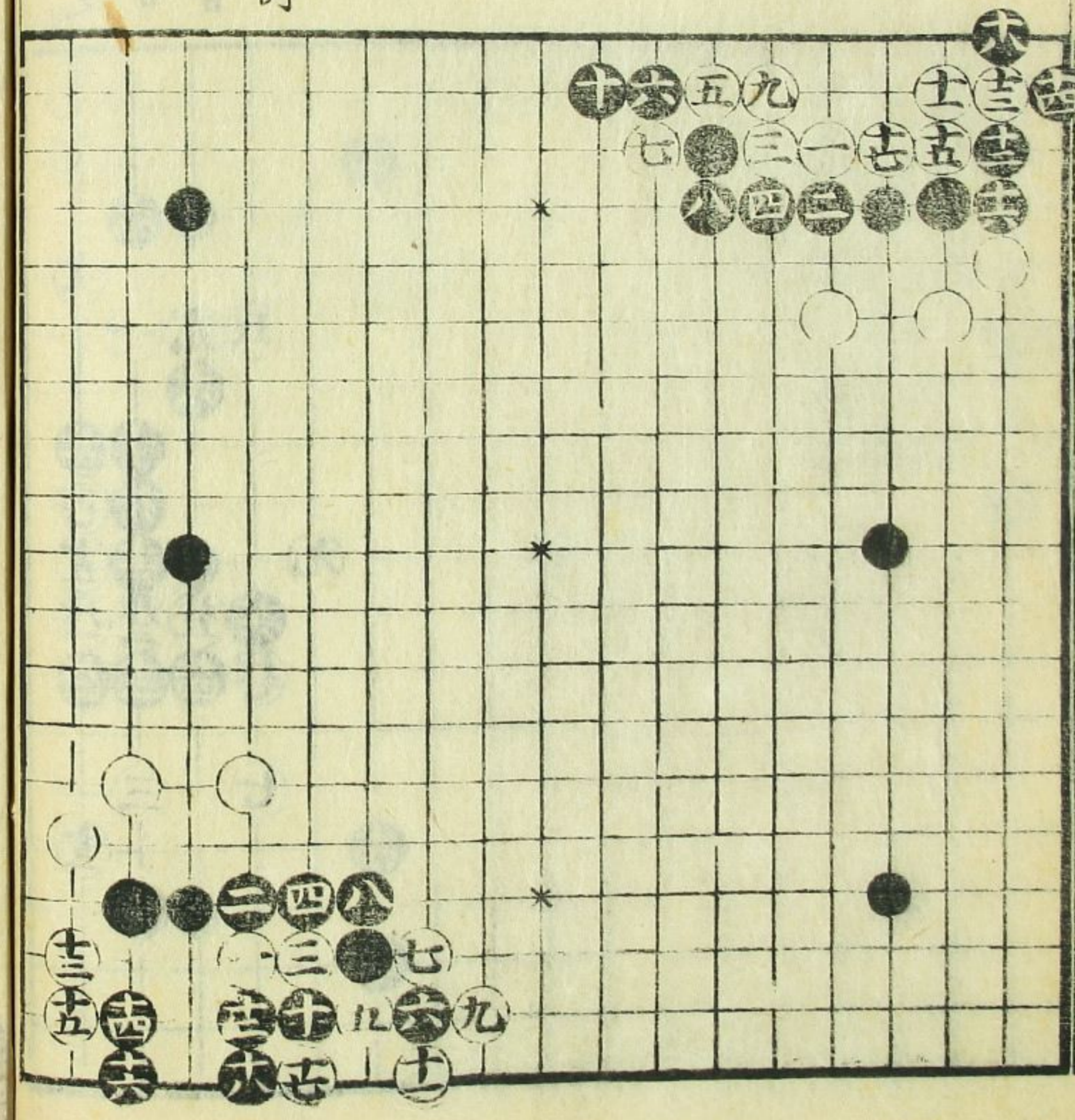


星...  
 ...  
 ...

六の年 吉  
 十の年 吉  
 十一の年 定  
 十八の年 定  
 南の石立角の  
 白死ス

石の基立日断

後巻之一終



後巻之一終  
 石の基立日断

